

市民活動は
まちの未来を
創造する

パートナー

発行 静岡市清水市民活動センター
指定管理者 特定非営利活動法人
NPOサポート・しみず
〒424-0943 静岡市清水区港町2-1-1
Tel 054-340-1010 Fax054-351-5530
mail@shimizu-s-center.org
http://shimizu-s-center.org



市民も一役 清水七夕まつり

清水駅前銀座から清水銀座(約1km)を会場に、「七夕まつり」が開催され、清水市民活動センターを利用する9団体も大きなクスマを出品しました。今年で65回目となる行事ですが、商店が担う催しから、まつりの存続を願う市民が多様な形で参加するイベントへと変わりつつあります。(7/6～7/9)

事業報告

● 学生団体を知ろう シリーズ② 中高生のやりたいことを応援する！YEC(若者エンパワメント委員会) 7月8日

学生がどのようなことを社会の課題と考え、どう解決しようとしているのか、じっくり話を聞き、市民団体とつながっていくためのシリーズ第2回。

YECは、社会にある若者に対する差別と偏見により彼らが本来持つ力を発揮できていない現状があることから、「全ての若者が思いを形にすることを通じて、社会の作り手となるために」というミッションを掲げて活動しています。



講座では、若者への差別や偏見を海上の氷塊に例え、若者たちはそれを砕きながら進む砕氷船であり、自分たちもエンジンとして共に走り、氷塊を取り除くことを担う団体、と紹介しました。

若者へのアプローチの事例「もう一つの放課後探検プロジェクト」は、中高生がやりたいことを企画し、半年間で実現するプロジェクトで、大学生はそのサポート役です。昨年度は、ファッションショーや、吹奏楽でフラッシュモブなど7つのプロジェクトを実現しました。

大学生の伴走でプロジェクトを進め、目的を達した高校生が自らの力で助成金を獲得して、現在新たに事業を進めている例もあるそうです。

ワークショップでは、学生団体と自分の団体とで、どのような協働が可能かを話し合い、色々な協力の形を提案し合いました。

市民団体が、学生たちをボランティアや助っ人として考えるのではなく、互いの得意分野を補完し強みを活かし合えるパートナーとして協力関係を築くことで、より活性化した活動ができるのではないのでしょうか。

リレートーク 港の風 43

「清水次郎長の生家」が市民の力でリニューアルされました。今回はその改修事業の中心となった団体の代表に登場していただきました。

● 地域資源を活用してまちに活気を

NPO法人次郎長生家を活かすまちづくりの会 理事長 牧田充哉

▶ コンテスト優勝報告会での
牧田理事長



「安政の大地震前に建てられた『次郎長生家』は、最近のような豪雨・突風に襲われたら倒壊してしまう。せめて雨漏りだけでも直したい」次郎長通りのある店主の一言がきっかけで、平成25年3月に「次郎長生家を活かすまちづくりの会」が発足しました。

以来、修理費として掲げた目標金額300万円を集めるべく様々な募金活動を行ってきました。

「歴史街歩きウォーク」、小学生を対象にした「次郎長通りスタンプラリー」、地元ミュージシャンによる「次郎長ライブ」などなど。でも、なかなか寄付金は集まりません。

そんな中、偶然東京の建築資材会社が企画した「あなたの残したい建物コンテスト」の存在を知りました。全国から歴史的価値ある建築物を募集して、Facebookで“いいね！”を一番多く獲得した候補者が修理費用を支援してもらえるとというもので、早速エントリーしたものの全国からの応募数はなんと500件！優勝など夢の夢と思っていたら、結果はなんとグランプリ!!これは次郎長さんの持つ〈強運〉のおかげと言うしかありません。

そしてこの話題は全国へと広がり、地元企業の皆さまはじめ大変多くの支援を頂き、単なる雨漏り補修から耐震を含めた完全な復元工事となりました。



▲繰り返される話し合い



▲屋根瓦の葺き替え作業



▲リニューアルされた次郎長生家

そもそも私が次郎長さんを知ったのは、小学生の頃(50年ほど前)。当時、次郎長親分を題材にした映画・浪曲・テレビ等の影響で、静岡・清水の観光は三保松原・日本平そして次郎長菩提寺梅蔭禅寺が中心でした。梅蔭禅寺周辺には父が経営する静岡茶の3店舗のほか10の土産店が軒を連ね、全国からの観光バスが連日ひっきりなしに訪れていたものです。“何故そんなに人気があるの？ この人のお墓に…??” 子供心になんとなく次郎長さんのことが気になっていました。

30歳を過ぎ、地元の歴史に耳を傾けるようになると、幕末乱世の時代に生きた次郎長さんの功績の大きさがわかってきました。明治維新の立役者たちを支え、富士の裾野の開墾や清水港の発展への貢献と社会事業家としても成果を残してきたのです。

おかげさまで、平成29年7月8日、次郎長生家は昔のたたずまいを復元しながら100年後にも残る建造物として落成式の日を迎えることができました。来年には国の登録文化財の指定を承認される方向です。

これからも皆様のお知恵を借りながら、後半生の次郎長さんの業績を語り継ぎ、他のまちづくりの団体とも連携し、この建物、梅蔭禅寺そして船宿末廣を活かして、かつての活気ある「清水のみなとまち」を取り戻すべく、活動していきたいと思えます。

問い合わせ先

☎ 054-352-0256 牧田 充哉 (有)小松園

市民活動見てある記

パートナー79号でお伝えしたNPOサポート・しみずの寄付つき商品の取り組み「しみず元気プロジェクト」がスタートして1年が経過しました。6月28日には企業からNPO5団体へ寄付金の贈呈式が行われ、さらに次期の継続支援が確認されました。

● 寄付つき商品からつながる「ご縁」

『寄付つき商品』とは、各企業等が提供する商品等を地域の人が購入するごとに、一定の割合で契約を結んだNPOに寄付する仕組みです。

協力した企業が社会の課題解決に取り組むNPOへの理解を深め、寄付以外にもネットワークを使い他企業につなぎ、新たな事業に取り組む団体も現れました。

(有)洞江水産×くさなぎこども食堂

同社の「ありがとう食堂」(清水区役所内)の刺身付日替わり定食売り上げの一部がこども食堂に寄付されます。

オリジナルのポスターも作成し、来店者にも積極的にPRしてくれました。

売り上げも伸びたということで、寄付する側にもメリットがありました。また、洞江典征専務の尽力で、納入業者の深沢米店とNPOサポート・しみずとのつながりができ、あらたな支援者が増えることになりました。



(有)深沢米店×NPO法人複合力

代表取締役の深澤圭吾さん(写真左)の協力で、複合力への支援が決まりました。寄付つき商品は独自銘柄米「にこまる」です。

深澤さん自身、農業の後継者不足を課題に感じ、持続可能な農業を目指して自ら伊豆の圃場で地元の方と共にこの米の栽培をおこなっています。

NPO団体が、耕作放棄地を耕し水田に再生させていることに共感し、複合力が栽培している黒米を、近くのホテルのコーナーで販売するルートも作ってくれました。

「ご縁を大切に、無理なくできる支援をしたい」、と語っていましたが、知人を介して酒造メーカーへ働きかけ、複合力の水田で栽培した酒米で日本酒を造る構想が具体化する立役者となりました。



複合力の「ぼくらのお酒トラスト」スタート

平成29年度から同団体が取り組む中山間地振興活動の一環として、清水区両河内の休耕田を利用した酒米作りを始めています。



醸造は、深澤さんの紹介で、清水区の三和酒造が引き受けてくれることになりました。

かねてから地元産の米で酒造りができたら、という思いがあり、すぐに話がまとまったとのことでした。

また、酒造りだけでなく、マイラベル作りや両河内の土を使ったぐい呑みづくりといったお楽しみ企画も盛り込まれており、こちらは地域の社会福祉活動団体の協力で準備が進んでいます。

地域で企業とNPOがつながり、そのご縁でさらに活動が広がっていきます。寄付つき商品の認知度は高いものではありませんが、取り組んだ団体にとっては寄付以外にも大きな収穫があります。また、企業にとっても社会貢献活動のひとつとして取り組んでいるという誇りが感じられます。

より多くのNPO、企業に関心を持ってもらい、さらにこの仕組みが広がっていくことを期待します。

事業のご案内

まずは知ることから始めよう！
NPOの資金調達を考える3つの講座

I 団体に合った資金調達を考える

NPOにとって資金源とはどのようなものでしょうか。自団体の財務状況を分析し、資金調達の方法を考えます。

日時 9月1日(金) 19:00~ **参加費** 200円
講師 センター長 磯谷千代美 (資料代)

II 助成財団に聞く 助成金申請のコツ

助成を行う立場から、その目的や申請書の書き方について事例を含めて解説します。

日時 9月30日(土) 13:30~ **参加費** 200円
講師 キリン福祉財団 太田 健さん (資料代)

III チャレンジ! クラウドファンディング

SNSを使った資金集めを考える団体が増えてきました。資金調達の手段としてだけでなく、団体の情報拡散にも役立ちます。

クラウドファンディングの成功事例を紹介し、始める前に抑えておきたいことをお伝えします。

日時 11月28日(火) 19:00~ **参加費** 無料
ゲスト FAAVO静岡 事例発表者 (株)あらまほし 戸田祐也さん
主催 静清信用金庫・清水市民活動センター
共催 (特活) NPOサポート・しみず

しみず・コレなあに?

その26



慶長12年、徳川家康の命により江尻宿の巴川に橋が架けられました。完成を祝い最年長の老夫婦が渡り初めをしようとする、どこからか男の子が現われ、あっという間に橋を渡って駿府の方角に行ってしまいました。橋はその逸話に因んで稚児橋と呼ばれ、男の子は巴川の河童だといわれています。

現在の稚児橋にある4体の河童像はよく知られていますが、欄干側面のレリーフは歩いて渡らなければなかなか気づきません。夕涼みがてら、このかわいい河童を見つけに出かけてはいかがでしょうか？

また、橋のたもとには230年続く菓子舗があり、河童をモチーフにしたお菓子が並んでいます。その中でも「河童の尻」(写真)は、名前に反して和三盆の上品な甘さと口溶けが楽しめる焼き菓子。こちらも散策の折にお立ち寄りください。



センター11周年記念事業 今までの10年に新たなスタート「+1(プラスワン)」!

実行委員会を立ち上げ、開設11周年の記念事業を計画中です。

実行委員長 森 洋子さん (静岡学生NGOあおい)
副実行委員長 本林智都さん (YEC若者エンパワメント委員会)
副実行委員長 山梨哲人さん (NPO法人不二見の会)

10年の節目の年を終え、フレッシュなメンバーで次のスタートです。

周年事業期間 10月1日~11月15日 の間、以下の事業のほか、いろいろな催しが行われます。多くのおみなさまのご参加をお待ちしています。

● 活動紹介パネル展・パネルコンテスト

展示期間 : 10月1日~11月15日
コンテスト投票期間: 10月1日~11月5日 (結果発表11月5日)

● 市民活動 FESTA2017

日時: 11月5日(日) 13:00~16:30
会場: 清水市民活動センター

● 他団体との共催・協賛事業

募集中です。詳細は募集要項をご覧ください。

